北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議
（第7回）

日時：令和3年8月23日（月）14:00～15:30
場所：北海道庁11階 水産林務部1号会議室

【次第】

１　現在の需給状況等について

２　今後の対応方向について

第７回 北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議　出席者名簿

所属	職氏名	備考
北海道森林組合連合会	営業部長　清水秀俊　様	オンライン
北海道素材生産業協同組合連合会	代表理事会長　髙篠和憲　様	オンライン
北海道木材産業協同組合連合会	常務理事　吉田朋泰　様	オンライン
北海道カラマツ製材業協議会	会長　松永秀司　様	オンライン
トドマツ人工林材協議会	会長　吉井忠　様 （代理出席　吉田良弘　様）	オンライン
物林（株）営業本部北海道グループ	グループ長　中根幹成　様	オンライン
住友林業フォレストサービス（株） 東日本事業部 北海道営業所	北海道営業所長　長尾知昌　様	オンライン
王子木材緑化（株）北海道支店	製紙原料・バイオマス燃料部長　松浦剛史　様	オンライン
日本製紙木材（株）北海道支店	支店長　飯塚　亨　様	オンライン
北海道森林管理局　総務企画部	企画課長　門脇大輔　様	オンライン
〃　森林整備部	資源活用第一課長　赤羽根浩　様	オンライン
〃	資源活用第二課長　根田祥一　様	オンライン
北海道水産林務部	林務局長　岡嶋秀典	道庁会場
〃　林業木材課	課長　加納剛	道庁会場
〃　〃	木材産業担当課長　宮谷勇	道庁会場
〃　〃	林業振興担当課長　山崎康裕	道庁会場
〃　森林整備課	課長　本橋伸夫	道庁会場
〃　道有林課	課長　岩崎誠	道庁会場
〃　総務課	課長補佐（林務企画）　立原泰直	道庁会場
〃　林業木材課	課長補佐（林業金融）　飯島昭仁	道庁会場

（オブザーバー）

北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場	専門研究主幹　斎藤直人　様	オンライン

（事務局）

北海道水産林務部林業木材課	課長補佐（林業木材）　野村具弘	道庁会場
〃	主査（林業木材）　宮田久	道庁会場

「北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議（第７回）」
開催要領

第1　日時

令和３年８月 23 日（月） 14:00 から 15:30

第２　開催方法

オンラインにて開催

第３　目的

第 6 回連絡会議以降の情勢の変化について意見交換するとともに、感染再拡大等を受けた今後の対応方向について検討を行うために開催する。

第４　構成員

構成員は別紙のとおりとする。

第５　運営

1. 林業木材課長が主宰する。
2. 林業木材課長が認めた場合は、構成員以外の者の出席を求めることができる。
3. その他、運営に関し必要な事項は林業木材課長が定める。

第６　事務局

連絡会議の事務局は、林業木材課に置く。

第７　雑則

この要領に定めるもののほか、必要な事項は林業木材課長が別に定める。

別紙

北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議（第7回）
構成員

北海道森林組合連合会

北海道素材生産業協同組合連合会

北海道森づくり推進協議会

北海道木材産業協同組合連合会

北海道カラマツ製材業協議会

トドマツ人工林材協議会

物林株式会社 営業本部北海道グループ

住友林業フォレストサービス株式会社 北海道営業所

王子木材緑化株式会社 北海道支店

日本製紙木材株式会社 北海道支店

北海道森林管理局

北海道水産林務部（総務課／林業木材課／森林整備課／道有林課）

資料1

現状の需給状況等について

【資料1－1】 第6回　北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議概要

【資料1－2】 製材・合単板・山棒チップの原木消費量の推移

【資料1－3】 製材・合単板・山棒チップの原木在荷量の推移

【資料1－4】 令和3年6月　製材工場動態速報

資料１-１

第6回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議

【開催日時】 令和３年４月 20 日(火)
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11 団体・企業
【主な意見】

【需給状況】

(建築材等)

- 製材工場の中でも KD 建築材を製造・供給できる・できないで受注状況に差がある。
  ※KD 建築材:建築用の人工乾燥木材
- KD 建築材を製造・供給できる工場には多くの注文と問い合わせがある一方、原木不足により対応が追いつかない。
- KD 建築材は、歩止まりが相当悪く、加工コストもかかるため、原木を増やした分だけ単純に増えるわけではなく、相当量の原木を確保しないと増えない。
- 2 月以降、本州からツーバイ材や羽柄材を作れないかとの問合せが増加。
- ラミナの引き合いが強く、既存の顧客からの増量や新規の問い合わせがあるが、対応できていない。

(原木)

- 例年と比べて工場の原木在庫は少なく、山土場にも原木は残っていない。
- 夏までは植栽・下刈りが主体となり、木材生産が落ちるため、需給バランスが崩れてきている。
- 4月に入り原木価格は徐々に上がっているが、コロナ前までは回復していない。
- 原木価格が上昇している感覚はまだ弱い。ただ、価格が高くなればいいというわけでなく適正な価格であることが重要。
- 合板用原木の道外需要については、カラマツの引き合いや価格上昇の可能性は引き続きあるものの、今後の住宅着工数によっては減産の可能性もあり、原木の調達には慎重。

【需給見通し】

(建築材等)

- アメリカの住宅需要やロシアの関税引き上げ等の国際情勢や、貿易のリードタイムを考えると、少なくとも今年度は輸入材の需給逼迫が続くのではないか。
- 住宅分野は裾野が広いため、総需要を満たせないと地域経済全体に影響を及ぼしかねない。
- 乾燥機が本当に足りなければ、要請活動を行い、北海道の木材を使っていく体制整備に動く必要がある。

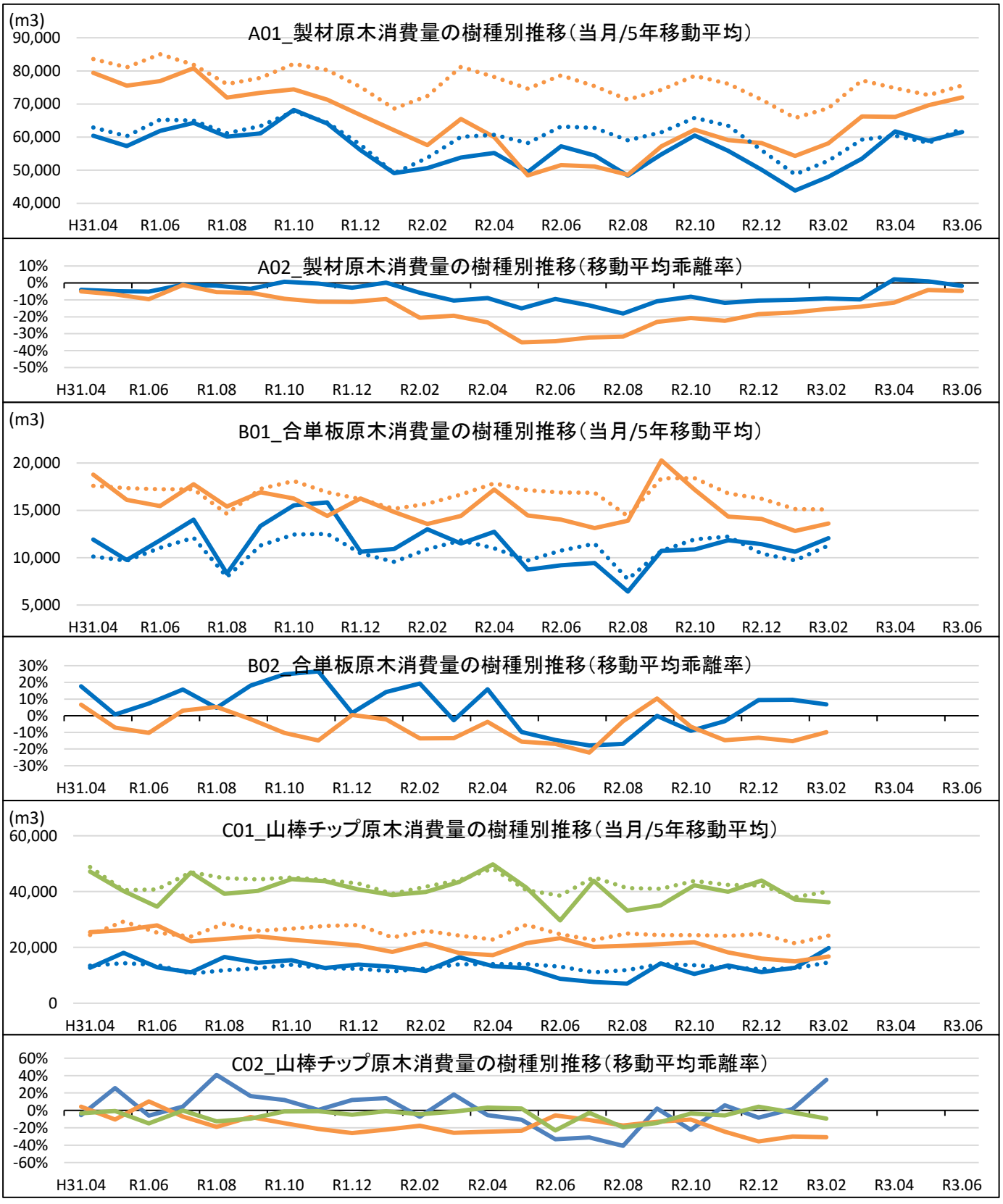
(原木)

- 道内の木材生産は、コロナの影響で作業員が伐採現場から離れていることや、これから植栽・下刈りの時期に入ることもあり、すぐに増産とはいかない。
- 中国で全体量が足りなくなれば、九州はもちろん北海道からも原木が欲しいとなる可能性はある。
- 国有林においては、令和3年度からは、通常の供給体制に戻っており、素材販売は前年度比 106%、立木販売は前年度比 104%を予定。
- 道有林の令和3年度の立木販売予定量は、令和2年度当初計画と比べ約1割増となる予定、販売時期なども各地域の需要動向を見極めて行う。
- 輸入材から道産材へ可能な部分から置き換えていく必要がある。価格を上げないと原木は出てこない。
- 丸太のまま道外に移出・輸出したら道内の原木・建築材がショートする。道内優先の意識を素材生産、流通、製材工場の関係者が持たなければ、全体として生き残れない。

【まとめ】

- 乾燥材をすぐに生産できる状況が低い中、品質を確保していくためにも、乾燥拠点など KD 建築材の新たな仕組みの構築に向けて、横連携を含め業界での議論が必要。
- 北海道を第1に考えて川上から川下まで一体的な取り組みが必要。
- 新型コロナウイルスという一つの局面を踏まえて、輸入材の高騰など新たな課題により各企業への影響が続いていることから、本連絡会議は今後も継続する。

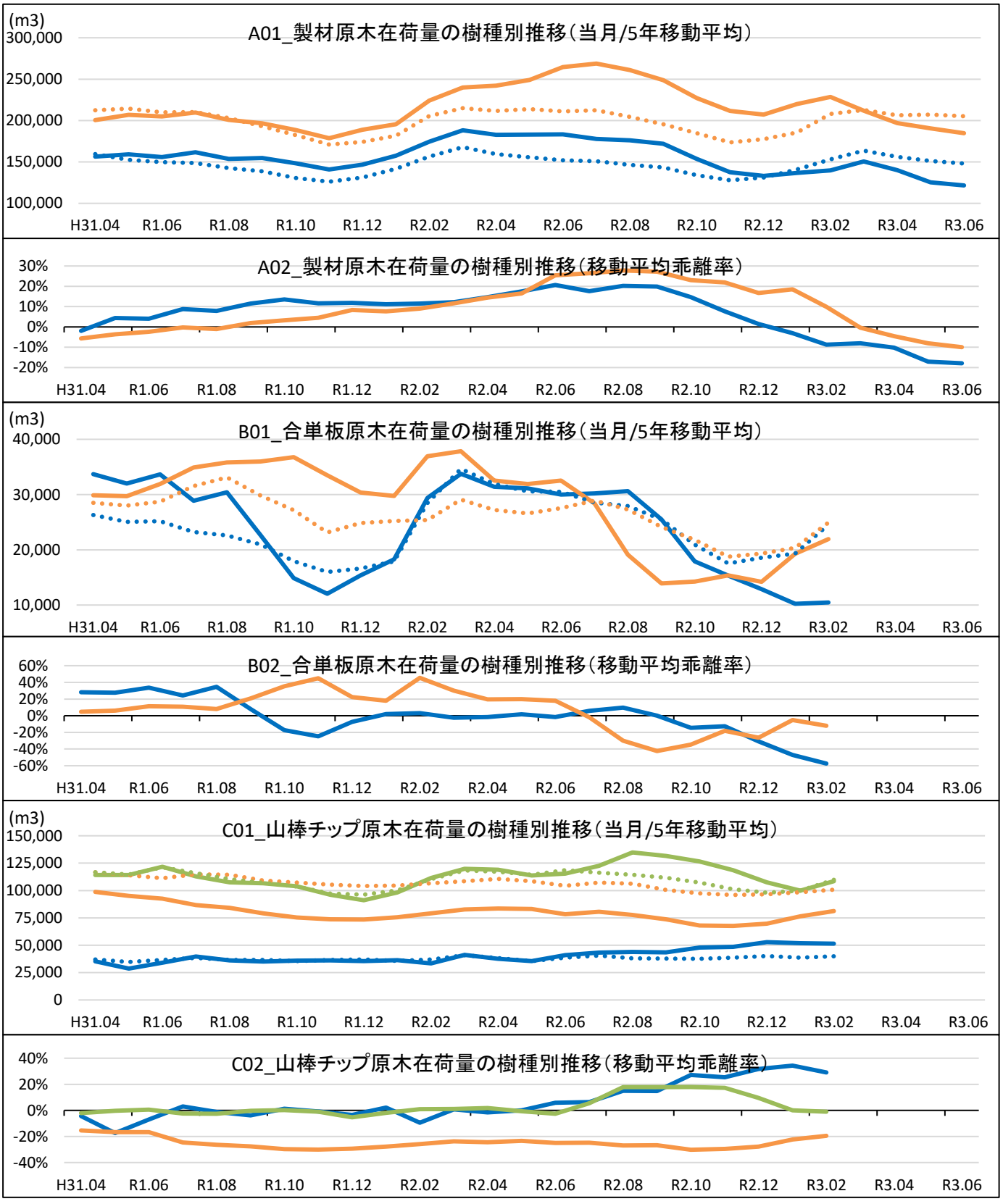
製材・合単板・山棒チップの原木消費量の推移



【凡例】

エゾトド（当月）	カラマツ（当月）	広葉樹（当月）
エゾトド（5年移動平均）	カラマツ（5年移動平均）	広葉樹（5年移動平均）

製材・合単板・山棒チップの原木在荷量の推移



【凡例】

エゾトド（当月）	カラマツ（当月）	広葉樹（当月）
エゾトド（5年移動平均）	カラマツ（5年移動平均）	広葉樹（5年移動平均）

資料１－４

令和3年6月　製材工場動態速報

【エゾマツ・トドマツ】　（単位：㎥）

	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島	(66.1%) 3,775	(57.9%) 6,387	(63.5%) 1,817	(114.0%) 2,416	(145.3%) 754	(96.8%) 6,383
檜山	(79.2%) 1,115	(105.8%) 4,109	(75.3%) 505	(69.4%) 509	(81.5%) 340	(69.9%) 123
胆振	(76.7%) 6,486	(60.8%) 12,768	(69.9%) 2,871	(115.4%) 4,676	(106.2%) 1,856	(81.6%) 3,312
日高	(102.4%) 1,185	(47.4%) 5,055	(101.8%) 551	(113.1%) 577	(115.1%) 420	(18.5%) 125
後志・石狩・空知	(133.5%) 2,095	(61.8%) 1,773	(136.5%) 1,032	(115.2%) 879	(170.3%) 327	(70.7%) 828
上川・留萌・宗谷	(118.2%) 15,719	(71.9%) 32,729	(115.4%) 7,004	(138.1%) 7,602	(134.3%) 2,614	(100.8%) 8,757
オホーツク	(126.3%) 16,442	(75.4%) 32,848	(126.7%) 7,789	(122.3%) 7,681	(156.1%) 3,253	(121.9%) 10,141
根室	(88.2%) 417	(75.0%) 2,183	(95.1%) 235	(99.1%) 223	0	(93.1%) 1,358
釧路	(105.4%) 5,560	(64.2%) 8,640	(99.0%) 2,480	(161.1%) 2,960	0	(84.8%) 4,390
十勝	(127.6%) 8,714	(53.3%) 15,134	(113.8%) 3,357	(156.8%) 4,733	(160.6%) 2,430	(75.9%) 4,153
合計	(107.5%) 61,508	(66.3%) 121,626	(102.9%) 27,641	(128.8%) 32,256	(136.6%) 11,994	(94.7%) 39,570

※　括弧内は前年同月比

【カラマツ】　（単位：㎥）

	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島・檜山	(75.3%) 232	(56.2%) 2,812	(76.8%) 116	(90.0%) 117	(92.6%) 50	(83.8%) 57
胆振・日高	(172.6%) 7,955	(75.8%) 24,743	(148.1%) 2,963	(135.3%) 2,927	(107.3%) 1,366	(139.5%) 1,161
後志・石狩・空知	(131.6%) 1,873	(85.1%) 2,826	(132.5%) 876	(115.6%) 821	(155.5%) 381	(79.0%) 274
上川・留萌・宗谷	(132.4%) 10,217	(49.3%) 18,285	(146.2%) 5,246	(132.4%) 5,119	(141.8%) 4,595	(119.3%) 613
オホーツク	(149.8%) 17,355	(76.5%) 56,354	(158.3%) 8,536	(156.5%) 8,162	(149.7%) 7,051	(127.2%) 3,177
根室・釧路	(153.8%) 5,154	(95.1%) 29,966	(147.4%) 2,323	(157.0%) 2,373	(157.0%) 1,793	(78.1%) 809
十勝	(129.6%) 29,240	(61.1%) 49,697	(133.9%) 13,611	(133.1%) 13,865	(132.4%) 11,878	(63.3%) 3,072
合計	(139.7%) 72,026	(69.8%) 184,683	(143.1%) 33,671	(139.0%) 33,384	(138.1%) 27,114	(90.3%) 9,163

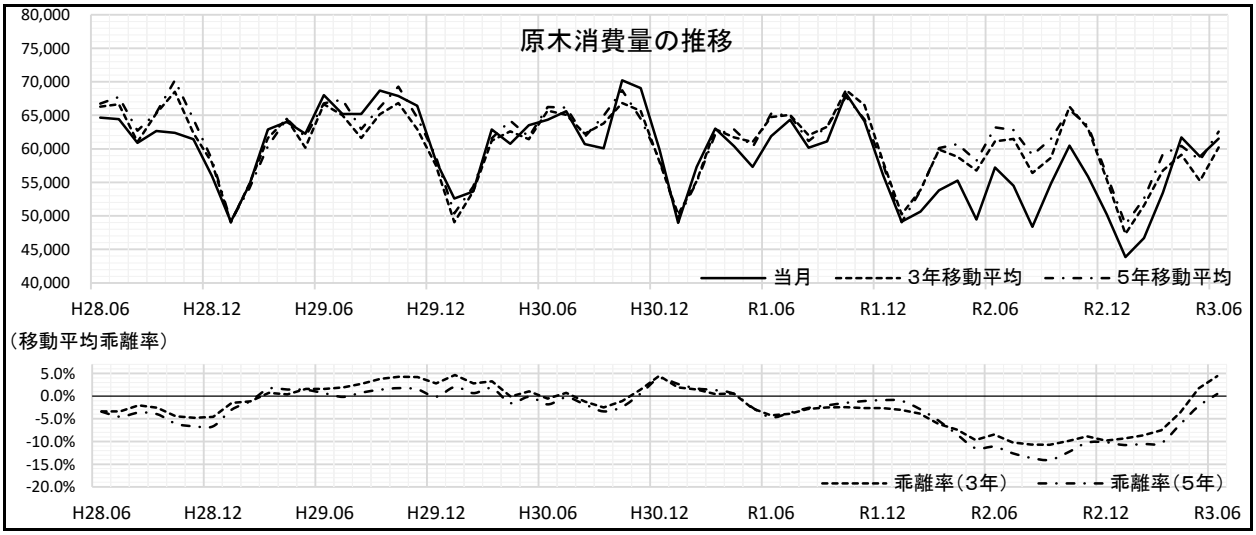
※　括弧内は前年同月比

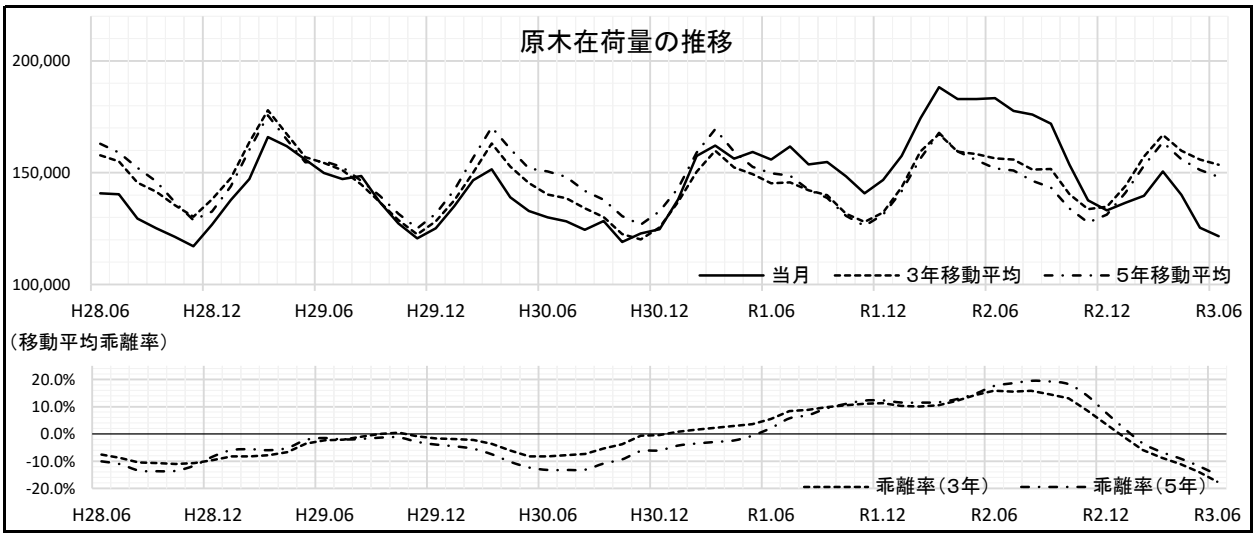
【広葉樹】　（単位：㎥）

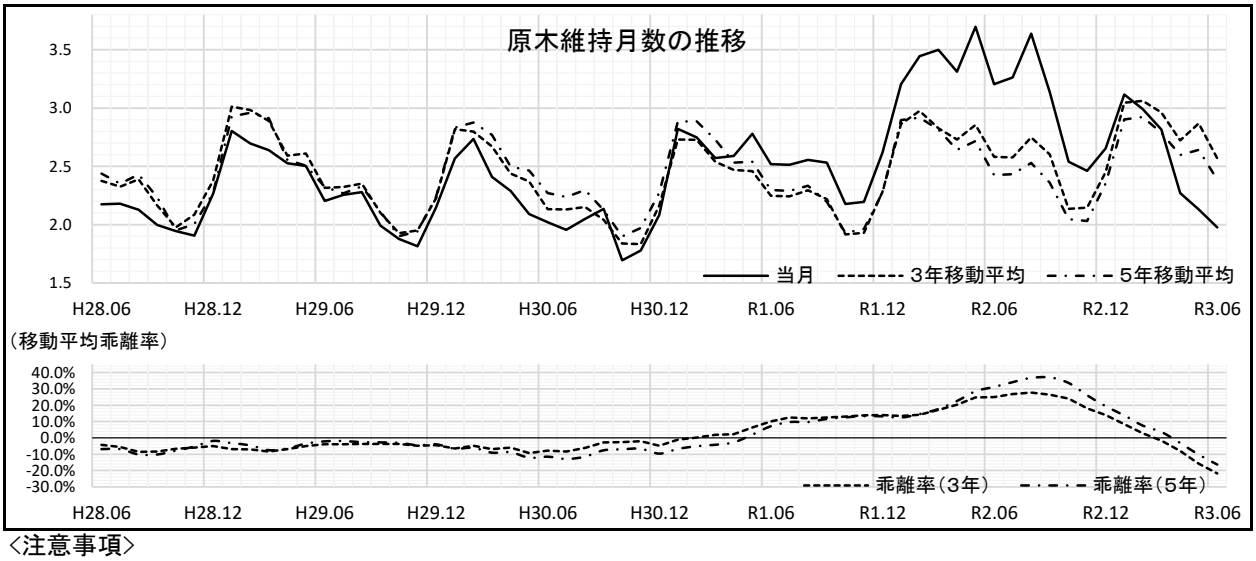
	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島・檜山	(129.3%) 424	(99.4%) 1,711	(115.9%) 190	(136.6%) 224	20	(1956.5%) 450
後志・胆振・日高・石狩・空知	(87.2%) 292	(118.0%) 1,476	(89.9%) 134	(103.2%) 130	0	(99.8%) 622
上川・留萌・宗谷	(129.4%) 3,733	(89.4%) 15,037	(128.8%) 1,904	(113.7%) 1,903	(100.4%) 267	(88.5%) 9,061
オホーツク・根室・釧路・十勝	(42.6%) 557	(112.7%) 6,755	(29.3%) 213	(112.4%) 336	(172.4%) 200	(127.3%) 2,013
合計	(103.1%) 5,006	(96.9%) 24,979	(97.0%) 2,441	(114.6%) 2,593	(127.5%) 487	(97.4%) 12,146

※　括弧内は前年同月比

製材工場の動向（エゾマツ・トドマツ）【平成28年6月～令和3年6月】

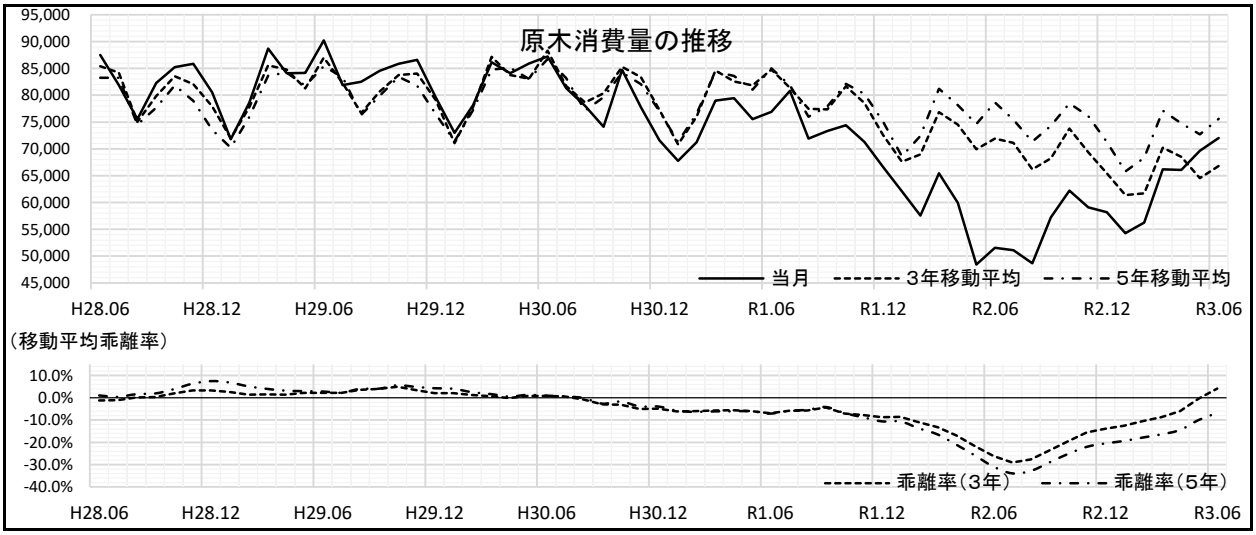


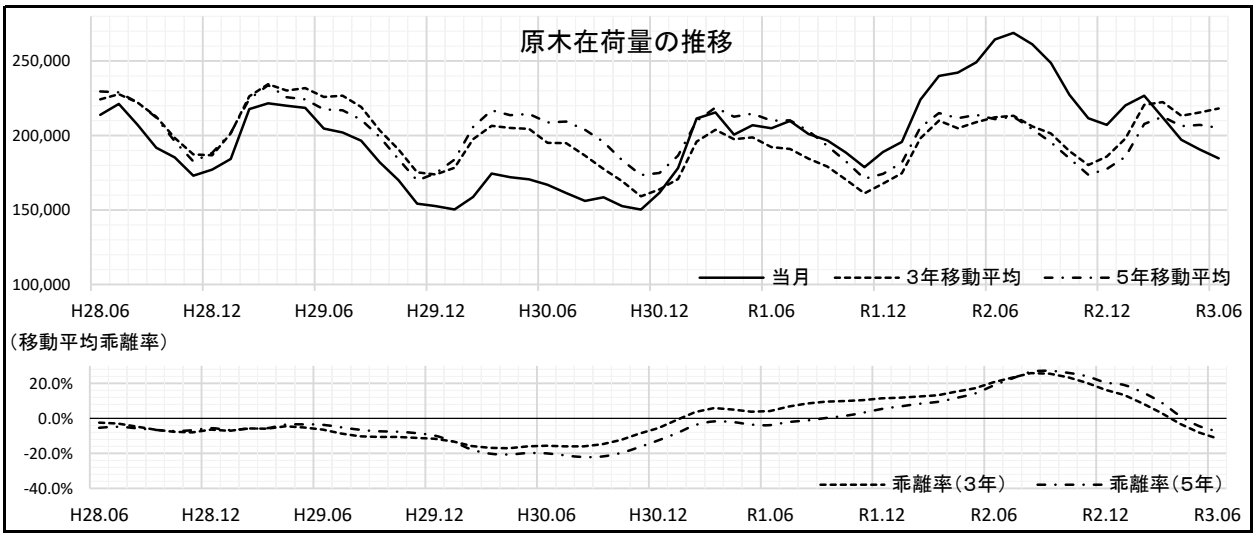


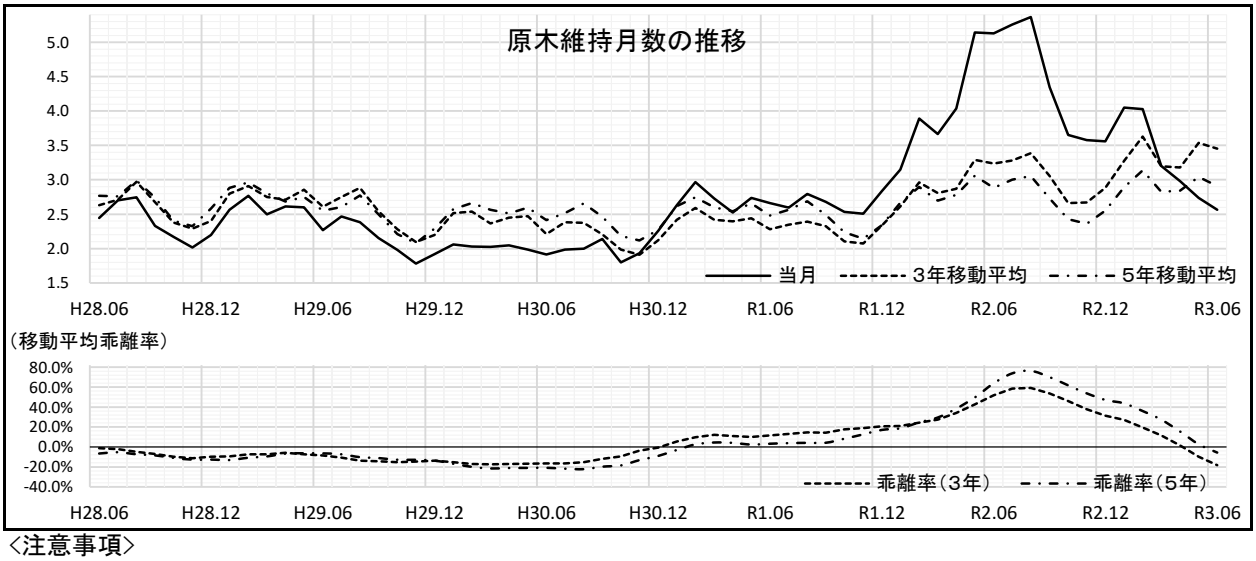


〈注意事項〉
・「3年移動平均」は当月値を含む過去3カ年の同じ月の平均値を表す。
・「5年移動平均」は当月値を含む過去5カ年の同じ月の平均値を表す。
・「乖離率（3年）」は3年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「3年移動平均」－1）×100）。
・「乖離率（5年）」は5年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「5年移動平均」－1）×100）。
・令和3年2月から令和3年6月までの値は速報値。

製材工場の動向（カラマツ）【平成28年6月～令和3年6月】







〈注意事項〉
・「3年移動平均」は当月値を含む過去3カ年の同じ月の平均値を表す。
・「5年移動平均」は当月値を含む過去5カ年の同じ月の平均値を表す。
・「乖離率（3年）」は3年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「3年移動平均」－1）×100）。
・「乖離率（5年）」は5年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「5年移動平均」－1）×100）。
・令和3年2月から令和3年6月までの値は速報値。

資料2

今後の対応方向について

【資料2－1】 プレカット工場へのアンケート結果

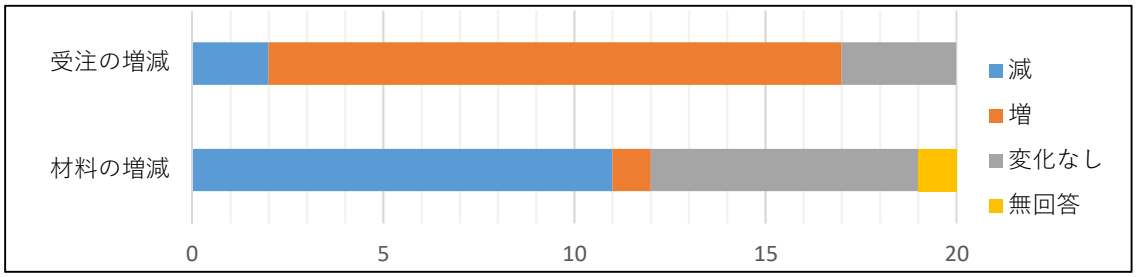
【資料2－2】 住宅メーカー・工務店へのアンケート結果

【資料2－3】 道産建築材の安定供給に向けた取り組み

プレカット工場アンケート結果

◎アンケート（別添資料参照）
調査期間：R3.7.7～R3.7.16
回収率：71%（28 社に送付、20 社回答、うち聞き取り調査協力可 10 社）

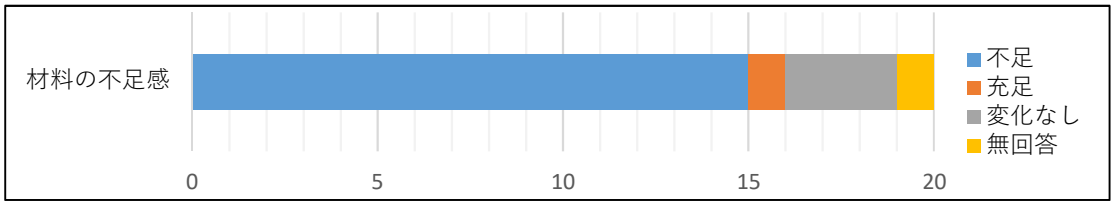
■　アンケート結果
問１ウッドショックの影響
①③材料・受注の増減



	減	増	変化なし	無回答	計
受注の増減	2	15	3	0	20
材料の増減	11	1	7	1	20

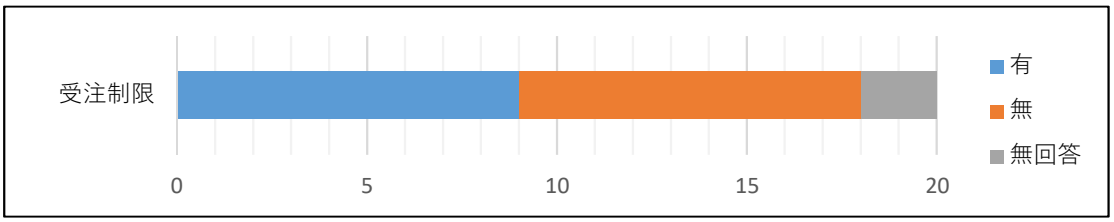
（受注:1～5 ヶ月〔1～1.5 月:2、2 月:8、3 月:3、4 月:1、5 月:2、無回答:4〕）

②材料の不足感



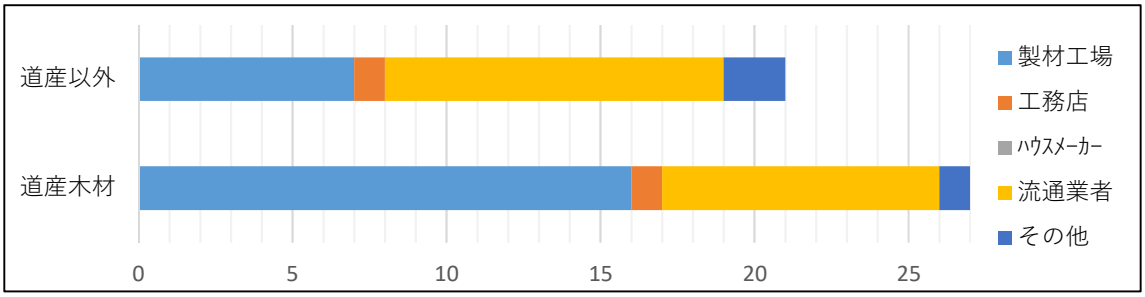
	不足	充足	変化なし	無回答	計
材料の不足感	15	1	3	1	20

④受注制限の有無



	有	無	無回答	計
受注制限	9	9	2	20

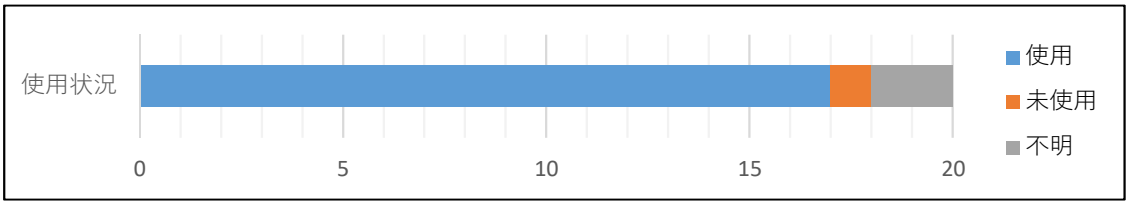
問 2 材料の入手先（複数回答）



	製材工場	工務店	ﾊｳｽﾒｰｶｰ	流通業者	その他	計
道産以外	7	1	0	11	2	21
道産木材	16	1	0	9	1	27

問 3 道産材の使用について

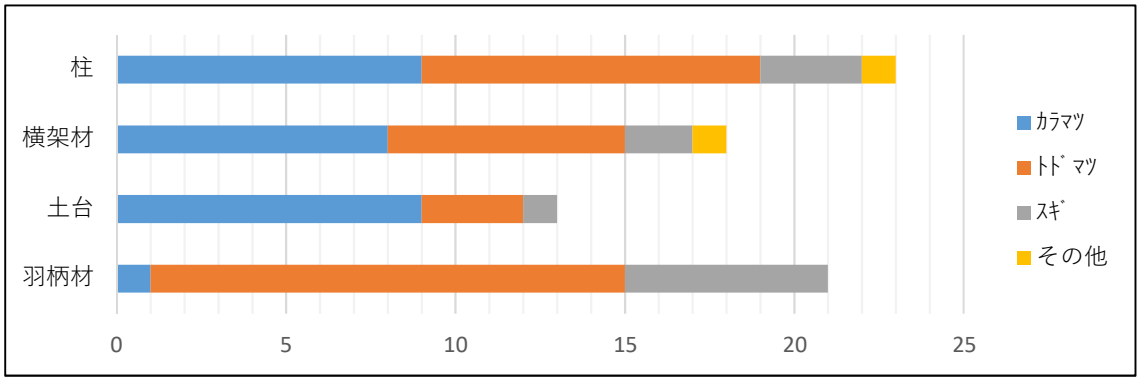
①道産材の使用状況



	使用	未使用	不明	計
使用状況	17	1	2	20

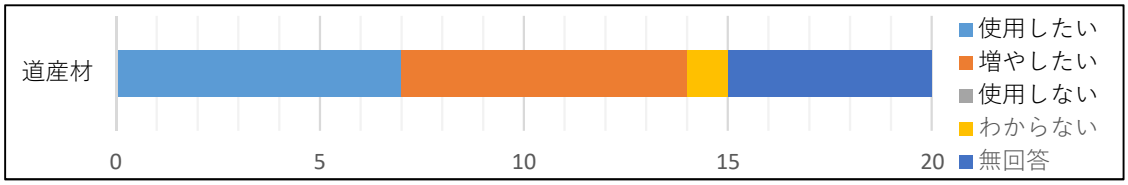
※不明は賃加工のみの工場

②道産材の部材と樹種

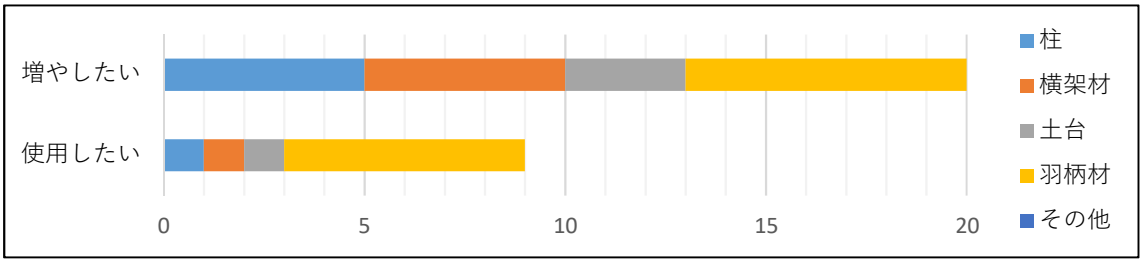


	ｶﾗﾏﾂ	ﾄﾄﾞﾏﾂ	ｽｷﾞ	その他	計
柱	9	10	3	1	23
横架材	8	7	2	1	18
土台	9	3	1	0	13
羽柄材	1	14	6	0	21
計	27	34	12	2	75

④道産材を増やしたいか、どの材を増やしたいか



	使用したい	増やしたい	使用しない	わからない	無回答	計
道産材	7	7	0	1	5	20



	柱	横架材	土台	羽柄材	その他
増やしたい	5	5	3	7	0
使用したい	1	1	1	6	0

問 4 建築材生産・販売事業者への要望等

（主な回答）

・生産量を増やしてほしい。

・安定供給、納期、品質向上。

・KD 材を生産してほしい。

問 5 道に対する要望等

（主な回答）

・持続可能な原木供給体制を構築できるよう山元への援助施策を充実してほしい。

・道産建築製材が安定供給できるよう川上から川下まで整備してほしい。

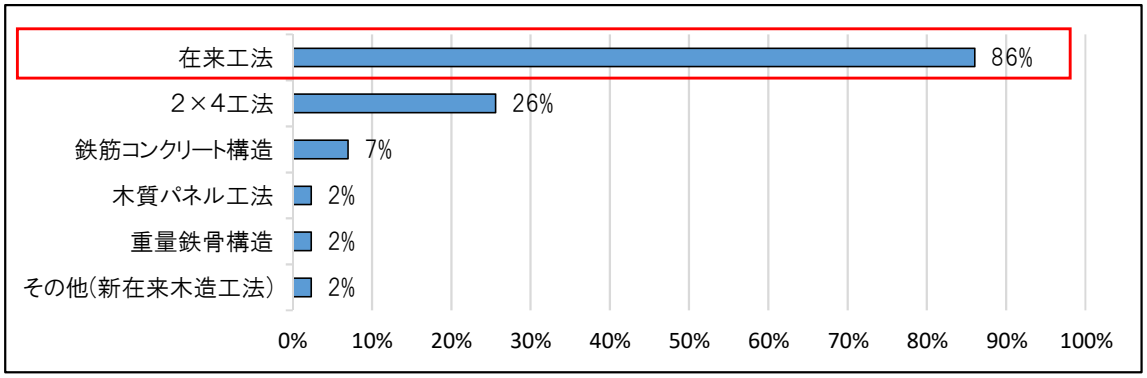
・集成材工場を増やすことを考えてほしい。

住宅メーカー・工務店へのアンケート結果（R3.8.18時点）

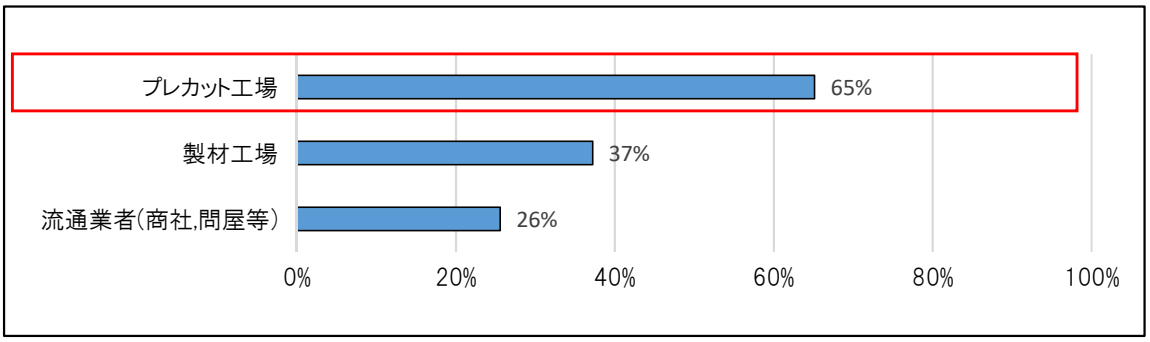
アンケート調査の内容

■ アンケート名：住宅の道産木材活用と高性能化についてのアンケート
■ アンケート期間：令和3年（2021年）7月8日（木）～7月26日（月）
■ アンケート先：きた住まいるメンバー（302社）
■ 回答数：43社
■ 調査項目（抜粋）-現在のウッドショックの影響（受注生産、価格引き上げ、工期延長等）
-現在の道産木材の使用状況や品質等に対する感想、今後の使用の意向

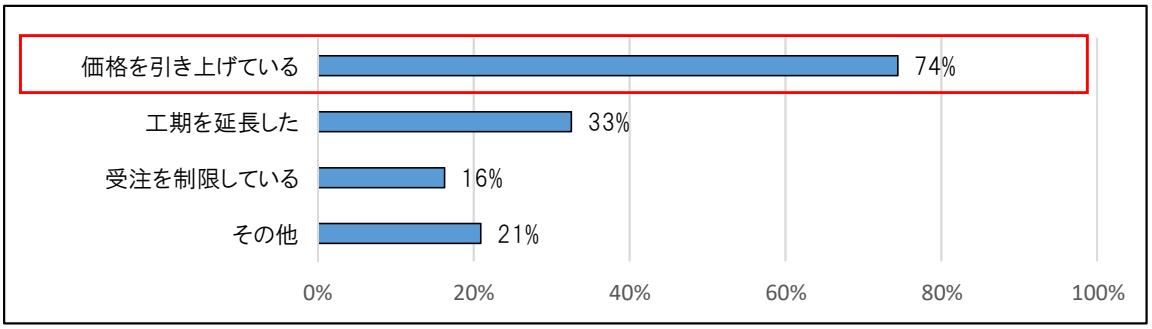
問1：採用している工法を教えてください。（複数回答）



問2：木材の主な仕入れ先はどこですか？（複数回答）



問3：御社の現在のウッドショックの影響を教えてください。（複数回答）

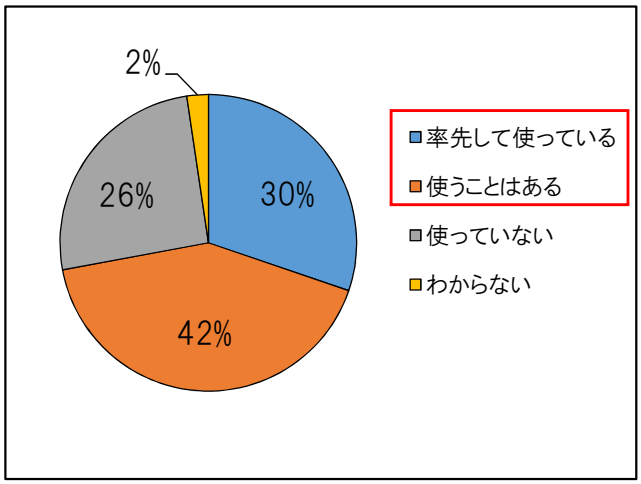


〇その他の内容

・プレカット工場の受注制限、羽柄材も品薄
・プレカット代は高騰しているが見積価格は据え置きにしている
・構造を含めた、プランの再検討等
・使用する部材、素材の検討
・価格引き上げの検討
・仕様等を変更して費用を下げた
・今のところ影響はない

など

問4-1：現在、道産木材を使っていますか？



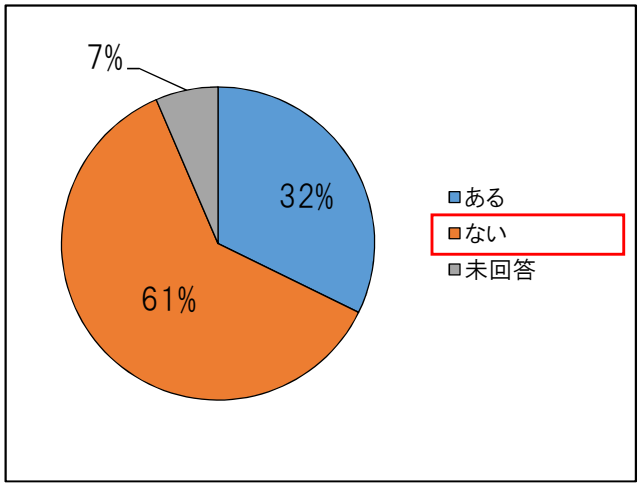
○(率先して使っている･使うことはあると回答された方)**道産木材を使っている理由**

･価格が安く、地域材を使うことを好意的に受け止める施主が多いため
･価格は高いが、地産地消、環境負荷軽減のために率先して使用している
･間伐材の有効活用･地元産の安心感
･地産地消の安心感、品質が良い(性能が安定してる)
･輸入材より寸法精度も乾燥率も良い

○(使っていないと回答した方)**使っていない理由**

･供給の不安
･価格が高い
･強度的な問題
･精度が悪い
･仕入れ先が扱っていない。　など

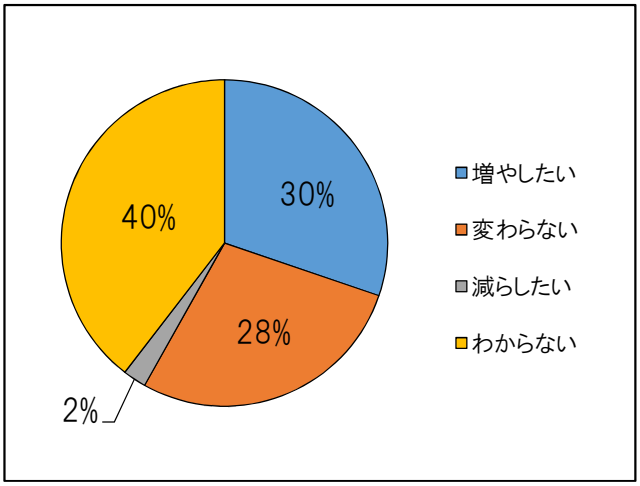
問4-2：（率先して使っている･使うことはあると回答した方）輸入材と比べて、品質･性能に問題はあるか？



○**問題点の内容**

･価格が高い
･輸入材と比較して高価･強度不足
･反りやすい　など

問5：輸入材の価格高騰、輸入量の減少を受け、今後道産木材の利用を増やす(または新たに利用する)考えはありますか？



○**増やしたいと回答した方の理由**

･手軽に入手できることが計画遂行に欠かせない
･現在輸入材では納品時期･価格が読めないが道産材の方が先読みしやすい
･今後、安定した価格で提供できると考えるから
･運搬等による環境負荷を考えると地場で賄えた方がよいと考える　など

道産建築材の安定供給に向けた取組

令和３年８月20日 林業木材課

現状・課題

トドマツ利用の現状と課題

１．道産トドマツの利用状況
建築材のうち半分が羽柄材、３割が仮設材、構造材は２割弱

２．建築材の乾燥材の割合
建築材のうち人工乾燥材は約３割

３．材質からみた課題
心持ちは割れやすい、高い含水率、腐朽（高齢で増加） etc

道内の木造住宅の現状

１．建築材の総需要量と自給率（H27 林産試調べ）
- 総需要量：75.5 万 m3
- 道産建築材：15.3 万 m3、自給率：20%（本州からの移入製品 32%、輸入製品 45%）

２．工法別の内訳
- 在来工法：６８% ● 2×4 工法：３０%

輸入材の価格高騰等の影響と課題

１．輸入材の価格、流通量
- 価格 → 2~4 倍 ● 輸入量 → 半分以下

２．住宅分野への影響
- 住宅価格の上昇 → +100 万円/棟程度
- 納期（工期）の延長 → 違約金の発生
  → 契約の見送り
- 注文住宅から建売住宅に需要が移行

３．道産木材利用の課題（工務店等の受け止め）
- 強度不足
  - 構造材は E-105 以上必要、道産木材は E-95、輸入材は 105 と認識
- 安定供給
  - 定期・必要量の納品（年間契約）

ウッドショックを契機に輸入製品から道産製品への転換促進

今後、一般民有林からのトドマツ原木の産出量が増加見込み

原木の安定供給とニーズ（品質や価格、供給量など）に対応できる生産体制の構築が必要

道産建築材の安定供給体制づくり

【プレカット工場、工務店のニーズ把握】

プレカット工場
（ﾌﾟﾚｶｯﾄ工場実態調査の対象工場）
- ●輸入材の先行き不透明に危機感
- ●リスク回避の観点から道産材の利用割合を増やしたい

工務店
（きた住まいるメンバーほか）
- ●材料の安定確保に危機感
- ●価格は安さより安定を重視

もっと道産建築材を使っていきたいい

マッチング

KD 道産建築材を製造・供給したい

道内製材工場

（課題）
- 原木在荷量の不足
- 既存の施設では受注増への対応が困難
- コロナの影響や今後の需給動向の不透明感から設備投資には慎重

マッチングにより道産木材の安定した需要を創出
需要や出材量の増加を背景に、各企業に応じた KD 生産体制の整備を加速

（生産体制事例）
- **例①：既存工場の製造ラインや乾燥施設などの増設**
- **例②：製材の調達や乾燥施設の共有など生産体制の協同化**
- **例③：新たな工場の設立**

（体制構築に向けて必要な取組）
- 原木の確保 ← 国有林、道有林、一般民有林が連携して支援
- 労働力、資金の確保 ← 国・道事業の活用を通じて支援 など

（参考）
- ○ ７月14日(水)、カラマツ製材業協議会 情報交換会
  組合組織などをつくり設備を導入し、乾燥・表面加工等を集中して実施する案を中心に、引き続き検討。
- ○ ７月28日(水)、トドマツ人工林材協議会 情報交換会
  乾燥材の供給を増やすため製材工場が連携した供用の乾燥拠点整備について、引き続き検討。